

---

「普通の日々が終わる \*後編\*3」

お星さん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

「普通の日々が終わる \* 後編\*3」

### 【コード】

N2603U

### 【作者名】

お星さん

### 【あらすじ】

「普通の日々が終わる \* 後編\*2」の続きです。

(前書き)

「普通の日々が終わる \*後編\*2」の続きです。

人間はロックを解除できない？何なら出来るのだろうか。

それにこの空間は一週間も居ないといけないのか…、あの殺人兵器と。

俺は、ある事思った。

殺人兵器はあれだけなのか。

「殺人兵器はあれしか居ないのか？」

「いや、恐らくは数十体は存在するはずだ。」

数十体も…！？あんな殺人兵器が存在するのか、この空間に。

「そして、お前殺そうした殺人兵器、A - 284はその数十体を束ねるリーダーみたいなものだ。」

あれがリーダー…。もしかしてアイツを壊せば他の兵器も壊れるのか？。

「アイツを壊せば他の殺人兵器も停止するのか？」

「ああ、そうだ。アイツは数十体の殺人兵器のシステムにリンクしている。そしてアイツを壊せば全てのシステムがダウンし、この空間も壊れる、まあA - 284を壊さなくても空間は一週間で壊れるけどな。だがアイツと数十体の兵器から逃げれる訳がないんだけどな。」

まあ、どちらしろA - 284を壊すしかないのか。

次の瞬間、周りに銃声が響いた。

俺は油断していたんだ…、すぐ殺しに来る訳が無いって。

(後書き)

読んでもらい、ありがとうございます。  
まだ続きます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2603u/>

---

「普通の日々が終わる \*後編\*3」

2011年10月9日05時14分発行